

鹿児島の動物⑭

ルリカケス (カラス科)

脊椎動物担当 中間 弘

ルリカケスは、奄美大島中南部と加計呂麻島・請島だけに生息する固有種で、全長(嘴から尾端までの長さ)が約38cmのやや大型の鳥です。頭部・胸・翼・尾が光沢のある鮮やかな瑠璃色をしており、名前の由来にもなっています。また、尾は先端が白色で、飛んでいるときは扇の縁飾りのようで、とても綺麗です。

その姿の美しさから「島の鳥」として親しまれています。また、国の天然記念



物にも指定されています。ただ、カラス科の鳥の定めとして？声が悪いのが玉に瑕きずです。

よく茂った照葉樹林に生息し、樹洞や崖のくぼみなどに小枝などを荒く組んだ巣を作って、ウズラの卵ほどの大きさと薄緑色の卵を2～4個産みます。森に面した人家の軒先に巣を作ることもあります。1月に巣作りを始め、2月に産卵して、4月にはヒナが巣立ちます。

雑食性で、大型の昆虫類や両生類、爬虫類、木の実などを食べます。特にスダジイなどのドングリは好物で、秋には頬袋に入れて運ぶ様子が頻繁に観察されます。

鹿児島の昆虫⑰

カマキリの卵

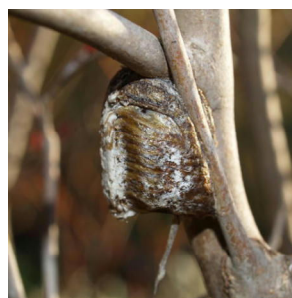
昆虫担当 中峯 浩司

鹿児島には8種類のカマキリが生息しています。そのほとんどが春から夏にかけて幼虫が育ち、雌は秋に卵を産んで寿命を迎えます。卵はそのまま冬を越し、幼虫の餌となる虫の数が増える5月頃からふ化が始まります。

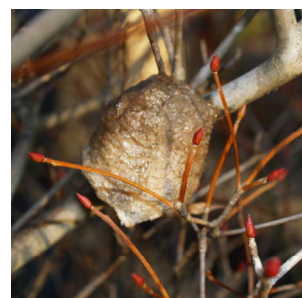
カマキリの卵はどれもスポンジ状の物質に包まれています。私たちはこのかたまりを「卵」と呼んでいますが、正しくは「卵のう(または卵しょう)」と言います。卵のうは、雌が卵と一緒に出した泡状の物質で、時間が経つと硬くなり、中にある細長い形をした卵を乾燥や衝撃から保護します。

卵が産み付けられる場所は様々で、植物の幹や小枝はもちろん、家の壁などの人工物にも産み付けられます。地上からの高さもまちまちですが、雪国では卵のうの位置が高いと冬は大雪になる傾向があるという研究報告もあります。

人里でよく見つかるのはハラビロカマキリ、オオカマキリ、チョウセンカマキリの卵のうです。どれも大型で目立ち、形もそれぞれ違っているので見分けるのは簡単です(チョウセンカマキリの卵のうは細長く、明太子のような形をしています)。



ハラビロカマキリ



オオカマキリ

春はすぐそこまで来ています。ぽかぽか陽気の日には、散歩がてらカマキリの卵のうを探してみたいはいかがでしょうか。